



創立153年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子  
わにっこり

和邇小だより 令和8年 6月号

児童数350名 文責 澤村幸夫



# 主体性と自主性



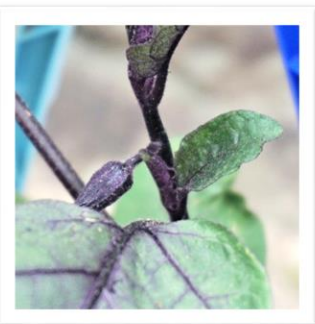
中庭に並べられた植木鉢には、2年生のミニトマト、ナス、ピーマンが育っています。1年生はアサガオ、3年生はハウセンカの世話をしています。

子どもたちは、生活科や理科の学習の中で、毎朝水をあげたり観察したりして、植物の成長を見つめていきます。種から芽が出て、土と太陽のエネルギーをもらい、自分たちの背丈ぐらいにまで成長する姿から、また、花を咲かせ、実をつけて、最後に種にもどる姿から、生命の不思議と科学的思考をふくらませていきます。

子どもたちにとって、毎日の学校生活が、「不思議」を見つけ、「知的好奇心」をくすぐられ、夢中を生み出す場になれば、と考えています。勉強とは本来、座学を含め「いやなもの」ではなく「楽しい」ものです。

一日一日のちょっとした積み重ねが「新たな発見」を生み「次なる挑戦」を築きます。私たち教職員も責任重大です。家庭もまた同様です。

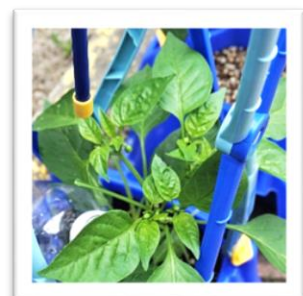
今月のタイトルに「主体性と自主性」と書きました。最近、特によく聞く「主体性」という言葉ですが、その意味を正しく理解し、生活にどう生かすかを説明するのは簡単ではありません。「自主性」と同じでは、と感じている人も多いと思いますが、まったく違います。



「主体性」とは、自分の考えや目的を持ち、周囲との関わりの中で自らの行動を選ぶ姿勢のことです。教育の言葉でいうと「自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動し、その結果を振り返る姿勢」のことです。学びを調整し、行動を起こす力や好奇心、他者との対話や協働、学びを方向付ける人間性という視点を持ちます。一方「自主性」とは、決められた価値観に対して、他者の指示に頼ることなく、自分の判断で行動する姿勢を指します。学校生活の中では、決められた枠の中で自分の役割を果たしたり、言われなくても行動したりすることです。

近年では、社会の変化が激しく、未来を予測することが困難な時代を迎えています。AIやデジタル技術の進化、グローバル化、人工構造の変化（少子高齢化）などにより、これまでのように「決められた正解を覚える」だけでは通用しない場面が増えています。こうした中で、子どもたちが新しい時代を逞しく幸せに生きるには、「自ら課題を発見し（課題を解決するだけでなく）、情報を整理し（偏った情報を信じるのではなく）、最適な方法を考えて（AIに教えてもらうのではなく）行動する力を育むことが重要です。

学校では、同一教材を同じように取り組むのではなく、自ら意思をもって選択し（自己決定）、他者と協働しながら学びを深めていきます。ミニトマトにするか、ナスにするか、ピーマンにするかを自分で決め、学びが自分事として自分につながっていることを実感させていきます。主体性の重要性は、「探求学習」「キャリア教育」「社会参画」などの基礎として大切にしていきたいと考えています。



5月13日

# 1年生を迎える会

5月13日(水)に「1年生を迎える会」が開催されました。児童会が「主体的」に企画し、入学した1年生を温

かく迎え、学校生活を少しでも楽しんでもらえるよう、委員会の紹介や和邇小クイズなどを行いました。全校児童が一堂に会した楽しいひとときでした。短い動画にまとめましたので、ご覧ください。

**1年生を迎える会**

紙面配布のみ表示



期間限定 6/1~6/30

## 6年生 租税教室

6年生で「租税教室」を行いました。税金がもしなかったら、どんな生活を送ることになるかについて意見を出し合い、身近なところで税金がどのように使われているかを学びました。模



擬紙幣の1億円を見せてもらい、税について考える良い機会となりました。

## 3・4年 ホールの子

3、4年生は、5月27日(水)に校外学習に出かけまし



た。びわ湖ホールで本物のオーケストラを鑑賞しました。実体験することで、子どもたちは、生演奏の迫力や魅力を感じることができました。

## 5年生 和邇川探検

5年生は、和邇川について調べました。中流(和邇公園付近)と下流に分けて、2日間、生き物調べをしました。ライフジャケットを着用し、実際に冷たい川に入り、魚を捕ったり、水生生物を捕獲したり、水質を調べたりしながら、中流と下流の違いについてまとめていきます。魚



がうまく捕れない実体験から、魚の動きや習性を知らないといけないことに気づいていました。

## 1年交通安全教室

5月15日(金)に、1年生で「交通安全教室」を行いました。1年生は、和邇小学校に入学してまだ2か月ですが、通学路には危険がいっぱい潜んでいます。歩道のない道路の通行や交差点での左右確認、横断歩道の渡り方などを、警察の皆様にご指導いただきました。

事故は起こってからでは、もともどりません。まず



は、自分の命を自分で守ることができるようになるように、そして数人でまとまって安全に登下校できるようにしてほしいです。

## 3年生 東西南北 地域探検

3年生では、和邇地域を東西南北の4つの方面に分け、各方面を徒歩で探検し、気づいたことや特徴をまと



めています。和邇は、歴史・自然・産業・地理などにおいて、実に豊かな地域です。子どもたちは、自分で歩く実体験を通して学んでいきます。

新シリーズ 最新!

# 子どもの たからもの



## 第3弾 「3・4年生の心の世界」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ最新の情報を掲載したいと考えています。

子育ては思うようにはいきませんし、子育てに悩みはつきものです。そこで、40年間の教師人生で、私自身が子ども

や保護者から学んできたことをお知らせし、“少しでも参考にさせていただければ”という思いで掲載します。

第3弾は、前回に続き、3・4年生(中学年)の心の世界について考えていきたいと思います。

小学校3・4年になると、子どもは自己主張とともに、ルールなどもある程度守れるようになり、集団で行動することが多くなります。いわゆる「ギャングエイジ」と言われる年代です。この時期の子どもたちにとって、一番関心があるのは友だち関係です。「ギャング」というのは2つの意味があります。1つは徒党を組むということです。大人に干渉されない、子どもたちだけの世界を持ち、小集団で行動します。もう1つの意味は、「悪さをする」ということです。入ってはいけない場所に入るとか、興味が湧いたずらをするなどの行動をとります。その中で子どもは、大人に縛られない自由の心地よさと、仲間を持つ楽しさと、仲間同士であるためのルールを学んでいきます。

この時期の子を持つ親に知っておいていただきたいことは、このような遊びが、子どもの自己肯定感を育てる意味で、とても重要であるということです。遊びというものは、楽しい体験です。それを通じて、この世は生きるに値する喜びがあることを知ります。また、遊びの中では、仲間が必要となります。そして遊びというルールのもとで、子どもたちは平等に扱われることを学びます。さらに、遊びには、大人が眉をひそめるようなものも含まれます。それによって、必ずしも大人にとって「いい子」でなくても、存在していることを学ぶのです。大人から見れば、単なる悪さやいたずらでも、子どもの成長にとっては大切な意味があるのです。「そういえば、自分も子どものころは同じようなことをしていた」と思えば、子どもたちを大目に見られるようになると思います。そのためには、安心して集団で遊べる場所や、子どもたちだけで歩いても安全な街を、私たち大人が意識して作っていく必要があると思います。



学校のディスカスの稚魚  
本文との関連はありません。

第一次反抗期(1歳半~3歳)と、第二次反抗期(思春期)の間には、中間反抗期という時期があります。(あまり知られていないようです。)これは、小学3年生ごろをピークに現れてくる反抗期ですが、この中間反抗期の特徴を一言でいうと「口答え」です。ああ言えばこう言うで、「お母さんだってやっているくせに」などと、反論や屁理屈が多くなってきます。これは、今まで親に依存していたのが、だんだん自分で考える力がつき、親を批判できるようになることから生じる状態です。それまでは、親の言うことを素直に受け入れていたのですが、

やがて親の言うことにも、矛盾があったり、間違いがあったりすることに気づき始めた、子どもにとっての大きな成長なのです。親としては、口答えをされると、カッとなって怒鳴りつけたり突き放したりしたくなりますが、賢明な対応ではありません。そういうときには、頭ごなしに抑えつけるのではなく、「よく考えてみたら、あなたの言うことも一理あるね。お母さんもその点は気をつけるから、あなたもちゃんと決まりは守りなさいよ」と反応してみてもいいのではないでしょうか。子どもは自分の言い分も認められたので、注意もすっと受け入れられるようになるかもしれません。前述した「主体性」を大切にする姿勢に共通するものだと思います。



学校のレッドビーシュリンブ  
本文との関連はありません。